

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年2月6日

【四半期会計期間】 第103期第3四半期
(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

【会社名】 参天製薬株式会社

【英訳名】 SANTEN PHARMACEUTICAL CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼CEO 黒川 明

【本店の所在の場所】 大阪府大阪市東淀川区下新庄三丁目9番19号
(同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っています。)

【電話番号】 該当事項はありません。

【事務連絡者氏名】 該当事項はありません。

【最寄りの連絡場所】 大阪府大阪市北区大深町4番20号

【電話番号】 06(4802)9322

【事務連絡者氏名】 執行役員 チーフ・ファイナンシャル・オフィサー(CFO)
財務・管理本部長 越路 和朗

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第102期 第3四半期連結 累計期間	第103期 第3四半期連結 累計期間	第102期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	108,946	116,842	148,663
経常利益 (百万円)	24,297	24,811	27,924
四半期(当期)純利益 (百万円)	15,376	16,190	17,109
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	22,656	22,279	25,378
純資産額 (百万円)	178,417	195,515	181,209
総資産額 (百万円)	218,750	278,020	231,105
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	186.32	196.01	207.29
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	185.74	195.20	206.65
自己資本比率 (%)	81.4	70.1	78.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	16,038	13,430	25,958
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,946	61,124	6,694
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,926	31,896	7,953
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	63,529	58,281	72,396

回次	第102期 第3四半期連結 会計期間	第103期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	77.31	85.83

(注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 売上高には、消費税等は含まれていません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、参天製薬グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において参天製薬グループが判断したものです。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、消費税率引き上げに伴う需要の反動や薬価改定の影響があったものの、網膜疾患治療剤および抗アレルギー点眼剤の伸長等により、前年同期と比べ拡大しました。海外医療用眼科薬市場は、欧州・アジアで堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、前年同期と比べほぼ横ばいで推移しました。

このような市場環境の下、事業は堅調に推移し、当第3四半期連結累計期間の業績は、増収増益となりました。

	前第3四半期連結累計期間 (百万円)	当第3四半期連結累計期間 (百万円)	対前年同期増減率 (%)
売上高	108,946	116,842	7.2
営業利益	23,633	24,337	3.0
経常利益	24,297	24,811	2.1
四半期純利益	15,376	16,190	5.3
償却前営業利益	26,215	29,735	13.4

[売上高]

前年同期と比べ7.2%増加し、1,168億4千2百万円となりました。

これは、主力の国内医療用医薬品事業における眼科用VEGF阻害剤「アイリーア硝子体内注射液」等の成長や、海外における普及促進活動により当社製品が市場に浸透したことによるものです。

[営業利益]

売上原価は、米メルク社の眼科製品の譲り受けに伴って仕入価格が低減された影響などがあり、前年同期と比べ2.6%減少し、414億7千万円となりました。売上原価率は、前年同期と比べ3.6ポイント減少し、35.5%となりました。

販売費及び一般管理費は、米メルク社の眼科製品の譲り受けに伴う無形固定資産の減価償却費を計上したことなどにより、前年同期と比べ19.4%増加し、510億3千4百万円となりました。このうち研究開発費は、131億2千2百万円となりました。

これらにより、営業利益は、前年同期と比べ3.0%増加し、243億3千7百万円となりました。なお、売上原価ならびに販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費およびのれん償却額の影響を除いた償却前営業利益は、297億3千5百万円となり、前年同期と比べ13.4%の増益となりました。

〔経常利益〕

前年同期と比べ2.1%増加し、248億1千1百万円となりました。

〔四半期純利益〕

前年同期と比べ5.3%増加し、161億9千万円となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント別業績の状況

参天製薬グループは、医薬品事業とその他の事業セグメントから構成されます。売上高の多くは医薬品事業によっており、その全売上高に占める比率は、98.4%になります。

医薬品事業の売上高は、前年同期と比べ7.6%増加し、1,149億2千8百万円となりました。営業利益は、244億2千4百万円となりました。一方、その他の事業の売上高は、前年同期と比べ10.0%減少し、19億1千3百万円となりました。営業損失は、8千7百万円となりました。

	国内		海外		合計	
	金額 (百万円)	対前年同期 増減率(%)	金額 (百万円)	対前年同期 増減率(%)	金額 (百万円)	対前年同期 増減率(%)
医薬品事業	89,384	0.0	25,544	46.5	114,928	7.6
医療用医薬品	84,460	0.0	25,491	46.4	109,952	7.9
うち眼科薬	76,637	0.9	22,294	31.9	98,931	6.6
うち抗リウマチ薬	7,341	8.0	34	51.8	7,376	8.4
うちその他医薬品	481	10.9	3,162	631.1	3,644	274.6
一般用医薬品	4,923	0.0	52	83.6	4,976	0.5
その他の事業	1,890	9.5	22	38.3	1,913	10.0
医療機器	1,704	10.2	22	38.3	1,727	10.7
その他	185	2.3	-	-	185	2.3
合計	91,274	0.2	25,567	46.3	116,842	7.2

(注) 各セグメントの売上高は、外部顧客に対する売上高を表しています。

〔医薬品事業〕

(医療用医薬品)

<眼科薬>

〔国内〕

薬価改定や消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動、後発品促進策の影響など売上減少要因が複数ありましたが、医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を展開し、特に新製品の市場浸透に注力することで、上述の売上減少を挽回することができました。その結果、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ0.9%増加し、766億3千7百万円となりました。

緑内障・高眼圧症領域では、主力製品の「タプロス点眼液」および「コソプト配合点眼液」は、数量ベースでは計画通り推移しました。しかしながら、上述の駆け込み需要の反動や、「コソプト配合点眼液」においては、薬価改定の影響があり、金額ベースでは前年同期と比べ減少となりました。それぞれの製品の売上高は、「タプロス点眼液」は、前年同期と比べ4.7%減少し、63億6百万円となり、「コソプト配合点眼液」は、前年同期と比べ10.9%減少し、82億1千9百万円となりました。

角結膜疾患治療剤領域では、ドライアイ(眼球乾燥症候群)などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ジクアス点眼液」の売上高は、新薬創出加算はあったものの消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により、前年同期と比べ2.7%減少し、55億4千3百万円となりましたが、数量ベースでは堅調に推移しました。また、「ヒアレイン点眼液」の売上高は、後発品促進策や薬価改定の影響により、前年同期と比べ16.3%減少し、119億3千2百万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、「クラビット点眼液」、「タリビッド点眼液」両剤合わせた売上高は、薬価改定や後発品促進策の影響により、前年同期と比べ20.2%減少し、57億8千9百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、スギ花粉の飛散が前年と比べ小規模ではありましたが、平成25年11月上市の新製品「アレジオン点眼液」を中心に医薬情報提供活動に注力した結果、「リボスチン点眼液」と「アレジオン点眼液」を合わせた売上高は、前年同期と比べ84.7%増加し、41億5千3百万円となりました。

網膜疾患治療剤領域では、滲出型加齢黄斑変性等の治療ニーズに応える「アイリーア硝子体内注射液」の売上高は、市場が拡大する中、順調に市場浸透した結果、前年同期と比べ32.9%増加し、177億1千7百万円となりました。

〔海外〕

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ31.9%増加し、222億9千4百万円となりました。

欧州では医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、緑内障・高眼圧症治療剤「タフタン」が市場に浸透してきました。

アジアにおいても、主力品の普及促進活動の展開により、中国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。

< 抗リウマチ薬 >

抗リウマチ薬については、薬価改定や競合の影響もあり、「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠」等を合わせた売上高は、前年同期と比べ8.4%減少し、73億7千6百万円となりました。

< その他医薬品 >

その他医薬品には、技術提携（導出）契約に基づく収入、受託製造等が含まれます。また、米メルク社の眼科製品の譲り受けに関し、関連する権利が移管され、各国・地域で参天製薬グループの製品としての販売が開始されるまでの間、米メルク社側に生じた利益の一部が契約に基づいて当社に還元されます。この収入が24億9千2百万円あったことにより、その他医薬品の売上高は、36億4千4百万円となりました。

（一般用医薬品）

一般用医薬品の売上高は、国内における消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響があったものの、「サンテ」シリーズ全体のブランド価値向上のための販売促進活動に注力したことや、高価格品が堅調に推移したことなどにより、前年同期と比べ0.5%増加し、49億7千6百万円となりました。

〔その他の事業〕

（医療機器）

医療機器の売上高は、高屈折率のアクリル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」シリーズの普及促進活動に注力したものの、国内の競合の影響などもあり、前年同期と比べ10.7%減少し、17億2千7百万円となりました。

（その他）

その他の売上高は、株式会社クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものと、サプリメント製品の販売によるもので、1億8千5百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間の財政状態

当第3四半期連結会計期間末の資産は、有価証券の減少などがありましたが、米メルク社の眼科製品の譲り受けに伴う製造販売承認権の計上などにより、前連結会計年度末と比べ469億1千4百万円増加し、2,780億2千万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金、未払法人税等の減少などがありましたが、米メルク社の眼科製品の譲り受けに関して長期借入れを行ったことなどにより、前連結会計年度末と比べ326億8百万円増加し、825億4百万円となりました。なお、平成26年6月に実行した短期借入れは、平成26年10月に長期借入れへ借換えました。

純資産は、利益剰余金、為替換算調整勘定、その他有価証券評価差額金の増加などにより、前連結会計年度末と比べ143億6百万円増加し、1,955億1千5百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ8.1ポイント減少し、70.1%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払いが137億7千4百万円、売上債権の増加が40億5千8百万円ありましたが、税金等調整前四半期純利益が248億3千7百万円、減価償却費が48億円あったことなどにより、134億3千万円の収入（前年同期は160億3千8百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却及び償還による収入が29億6百万円ありましたが、固定資産の取得による支出が641億2千7百万円あったことなどにより、611億2千4百万円の支出（前年同期は59億4千6百万円の支出）となりました。なお、固定資産の取得の主な内容は、米メルク社の眼科製品の譲り受けに伴う無形固定資産の取得によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いが81億8千1百万円ありましたが、米メルク社の眼科製品の譲り受けに関し、長期借入れによる収入が400億円あったことなどにより、318億9千6百万円の収入（前年同期は79億2千6百万円の支出）となりました。なお、平成26年6月に実行した短期借入れ350億円は、平成26年10月に返済し長期借入金へ借換えしました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末と比べ141億1千4百万円減少し、582億8千1百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

中期経営計画について

参天製薬グループは、基本理念の実現に向けて、2020年に向けた長期的な経営ビジョンを掲げ、世界中の一人でも多くの患者さんの健康の増進に貢献するために、「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」を目指します。さらに、長期的な経営ビジョンの実現に向け、より具体的な取り組みを進めるために、2014年度から2017年度までの4ヵ年の中期経営計画を策定し、以下の3つの基本方針を主たる対処すべき課題として取り組んでおります。

- (1) 持続的成長を可能とするための製品創製への変革、生産性向上の実現
- (2) アジア・欧州での事業成長および新規市場参入によるプレゼンスの向上
- (3) 持続的な成長を実現するための人材育成および組織構築

(4) 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として新製品の創製を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な研究開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジンF₂ 誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、平成20年12月より日本で「タプロス点眼液」として販売しています。海外では欧州とアジアで自社販売しており、中国では製造販売承認を申請中です。緑内障・高眼圧症を適応症とする配合剤DE-111（一般名：タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩）は、平成26年11月に日本において「タプロコム配合点眼液」として発売しました。また、欧州において、平成26年10月に製造販売承認を取得し、平成27年1月にドイツにて発売しました。順次各国にて、製造販売承認を取得し、発売する予定です。韓国では、平成26年12月に製造販売承認を申請しました。緑内障・高眼圧症を適応症とするEP2受容体作動薬DE-117（一般名：未定）は、米国で後期第 相試験を実施中です。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、平成22年12月より日本で「ジクアス点眼液」として販売しています。また、韓国では平成25年10月より販売しています。中国では製造販売承認を申請中です。

網膜・ぶどう膜疾患領域において、ぶどう膜炎を適応症とするDE-109（一般名：シロリムス）は、米国、日本および欧州で第 相試験を実施中です。また、DE-120（一般名：未定）は、滲出型加齢黄斑変性を対象に第 相/前期第 相試験を米国で実施中です。

サンテン・エス・エー・エス（連結子会社）の臨床開発品について、Cyclokot（開発品名：シクロカット、一般名：シクロスポリン、製品名：「Ikervis」（アイケルビス））は、重症ドライアイを適応症として欧州で平成25年12月より製造販売承認を申請中です。平成27年1月に欧州医薬品庁（EMA: European Medicines Agency）の欧州医薬品評価委員会（CHMP: Committee for Medicinal Products for Human Use）より承認勧告を取得しました。春季カタルを適応症とするVekacia（開発品名：ベカシア、一般名：シクロスポリン）は、欧州で第 相試験を実施中です。

なお、当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、131億2千2百万円です。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	220,000,000
計	220,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	82,619,403	82,634,703	東京証券取引所 (市場第1部)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式。単元株式数は100株です。
計	82,619,403	82,634,703	-	-

(注) 「提出日現在発行数」には、平成27年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の権利行使により発行された株式数は含まれていません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日 (注)	7,500	82,619,403	13	7,327	13	8,021

(注) 1 新株予約権の権利行使による増加です。

2 平成27年1月1日から平成27年1月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が15,300株、資本金が27百万円、資本準備金が27百万円それぞれ増加しています。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしています。

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,000	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式。単元株式数は100株です。
完全議決権株式(その他)	普通株式 82,535,900	825,359	同上
単元未満株式	普通株式 73,003	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式。
発行済株式総数	82,611,903	-	-
総株主の議決権	-	825,359	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式18株が含まれています。

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 参天製薬株式会社	大阪市東淀川区下新庄 三丁目9-19	3,000	-	3,000	0.00
計	-	3,000	-	3,000	0.00

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

なお、当社では、マネジメントの一層の強化と戦略意思決定の質・スピードの向上を図るため、執行役員制度を導入していますが、前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、執行役員の職名に次のとおり異動がありました。

新職名	旧職名	氏名	異動年月日
常務執行役員 チーフ・サイエンティフィック・ オフィサー(CSO) 研究開発本部長兼サンテン・イン ク取締役社長兼CEO	執行役員 チーフ・サイエンティフィック・ オフィサー(CSO) サンテン・インク取締役社長兼C EO	ナヴィード・シャムズ	平成26年7月1日
執行役員 研究開発本部 グローバル臨床開 発・メディカル・アフェアーズ統 括兼日本研究開発代表	執行役員 研究開発本部長	金子 隆志	平成26年7月1日

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」といいます。）に基づいて作成しています。

また、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）および第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けています。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	63,509	58,303
受取手形及び売掛金	52,086	3 56,577
有価証券	13,111	1,201
商品及び製品	16,223	14,122
仕掛品	390	192
原材料及び貯蔵品	3,417	4,024
繰延税金資産	2,346	1,559
その他	4,925	3,460
貸倒引当金	3	5
流動資産合計	156,006	139,436
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	45,033	45,886
減価償却累計額及び減損損失累計額	30,886	31,999
建物及び構築物(純額)	14,146	13,886
機械装置及び運搬具	13,453	14,297
減価償却累計額及び減損損失累計額	11,242	11,848
機械装置及び運搬具(純額)	2,210	2,448
土地	8,266	8,300
リース資産	285	230
減価償却累計額及び減損損失累計額	129	62
リース資産(純額)	155	168
建設仮勘定	816	1,656
その他	12,804	13,360
減価償却累計額及び減損損失累計額	10,772	11,243
その他(純額)	2,032	2,116
有形固定資産合計	27,628	28,578
無形固定資産		
のれん	6,297	5,846
仕掛研究開発	8,357	8,645
製造販売承認権	-	59,561
ソフトウェア	1,826	1,705
その他	102	230
無形固定資産合計	16,585	75,989
投資その他の資産		
投資有価証券	21,739	25,749
繰延税金資産	5,488	4,424
その他	3,657	3,841
投資その他の資産合計	30,885	34,015
固定資産合計	75,099	138,583
資産合計	231,105	278,020

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,270	11,052
1年内返済予定の長期借入金	-	11,767
未払金	9,695	10,243
未払法人税等	8,169	2,521
賞与引当金	3,573	2,296
返品調整引当金	135	175
その他	3,249	5,171
流動負債合計	39,093	43,228
固定負債		
長期借入金	42	28,254
リース債務	59	68
繰延税金負債	2,796	2,892
退職給付に係る負債	5,400	5,764
事業構造改善引当金	802	863
資産除去債務	221	223
その他	1,479	1,210
固定負債合計	10,802	39,276
負債合計	49,896	82,504
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,264	7,327
資本剰余金	7,958	8,021
利益剰余金	160,115	168,084
自己株式	9	16
株主資本合計	175,328	183,416
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,035	6,558
為替換算調整勘定	2,574	5,988
退職給付に係る調整累計額	1,128	1,015
その他の包括利益累計額合計	5,481	11,531
新株予約権	399	567
純資産合計	181,209	195,515
負債純資産合計	231,105	278,020

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	108,946	116,842
売上原価	42,571	41,470
売上総利益	66,374	75,371
販売費及び一般管理費	1 42,740	1 51,034
営業利益	23,633	24,337
営業外収益		
受取利息	52	54
受取配当金	508	538
その他	302	330
営業外収益合計	863	924
営業外費用		
支払利息	5	62
為替差損	93	217
借入手数料	-	99
減価償却費	85	48
その他	14	21
営業外費用合計	200	450
経常利益	24,297	24,811
特別利益		
固定資産処分益	-	59
投資有価証券売却益	473	-
特別利益合計	473	59
特別損失		
固定資産処分損	17	-
減損損失	-	33
施設利用権評価損	1	-
事業構造改善費用	880	-
特別損失合計	899	33
税金等調整前四半期純利益	23,871	24,837
法人税、住民税及び事業税	8,328	8,050
法人税等調整額	167	597
法人税等合計	8,495	8,647
少数株主損益調整前四半期純利益	15,376	16,190
四半期純利益	15,376	16,190
少数株主損益調整前四半期純利益	15,376	16,190
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,540	2,560
為替換算調整勘定	4,590	3,414
退職給付に係る調整額	148	113
その他の包括利益合計	7,279	6,088
四半期包括利益	22,656	22,279
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	22,656	22,279
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	23,871	24,837
減価償却費	2,060	4,800
のれん償却額	584	649
投資有価証券売却損益(は益)	473	-
減損損失	-	33
事業構造改善費用	880	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	131	524
受取利息及び受取配当金	561	593
支払利息	5	62
売上債権の増減額(は増加)	8,330	4,058
たな卸資産の増減額(は増加)	3,283	2,113
仕入債務の増減額(は減少)	1,572	3,259
その他	578	1,538
小計	22,446	26,647
利息及び配当金の受取額	568	604
利息の支払額	2	47
法人税等の支払額	6,973	13,774
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,038	13,430
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	67	82
定期預金の払戻による収入	67	180
有価証券の取得による支出	604	-
有価証券の売却及び償還による収入	1,906	2,906
固定資産の取得による支出	3,548	64,127
固定資産の売却による収入	2	69
投資有価証券の取得による支出	4,218	111
投資有価証券の売却による収入	512	40
その他	3	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,946	61,124
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	35,000
短期借入金の返済による支出	-	35,000
長期借入れによる収入	-	40,000
配当金の支払額	8,146	8,181
その他	220	78
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,926	31,896
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,566	1,683
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,732	14,114
現金及び現金同等物の期首残高	59,797	72,396
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 63,529	1 58,281

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間において、Santen Switzerland SA、Santen Italy S.r.l.およびSanten UK Limited、当第3四半期連結会計期間において、Santen Pharmaceutical Spain, S.L.、SANTEN (THAILAND) CO., LTD.、SANTEN PHARMA MALAYSIA SDN.BHD.およびSANTEN PHILIPPINES INC.を新たに設立したため、連結の範囲に含めています。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 当社は、株式会社三菱東京UFJ銀行と短期借入契約を締結しています。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
借入契約の総額	- 百万円	45,000百万円
借入実行額	-	35,000
差引額	-	10,000

(注) 上記の短期借入契約に基づく借入実行額35,000百万円は、平成26年10月に長期借入れへ借換えました。

なお、長期借入れの総額は40,000百万円であり、株式会社三菱東京UFJ銀行および株式会社日本政策投資銀行とそれぞれに締結した長期借入契約に基づくものです。

2 偶発債務

従業員の金融機関からの借入金に対し債務保証を行っています。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
従業員(借入債務)	103百万円	85百万円

3 四半期連結会計期間末日受取手形

受取手形は手形交換日をもって決済しています。なお、当四半期連結会計期間の末日は、金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日受取手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれています。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
受取手形	- 百万円	15百万円

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
給料及び手当	8,359百万円	9,161百万円
賞与引当金繰入額	1,058	1,384
退職給付費用	843	829
研究開発費	12,498	13,122

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
現金及び預金勘定	54,625百万円	58,303百万円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金等	95	21
償還期間が3ヵ月以内の短期投資(有価証券)	8,999	-
現金及び現金同等物	63,529	58,281

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	4,123	50.00	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金
平成25年11月6日 取締役会	普通株式	4,126	50.00	平成25年9月30日	平成25年11月29日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	4,129	50.00	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金
平成26年11月5日 取締役会	普通株式	4,130	50.00	平成26年9月30日	平成26年11月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	106,821	2,124	108,946	-	108,946
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	93	93	93	-
計	106,821	2,218	109,040	93	108,946
セグメント利益又は損失()	23,996	363	23,633	-	23,633

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	114,928	1,913	116,842	-	116,842
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	471	471	471	-
計	114,928	2,384	117,313	471	116,842
セグメント利益又は損失()	24,424	87	24,337	-	24,337

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2 当第3四半期連結累計期間において、医薬品事業の資産が、前連結会計年度末に比べ大幅に増加しています。Merck & Co., Inc.の眼科製品の譲り受けに伴う無形固定資産の増加額は59,561百万円です。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年12月31日)
(1) 1 株当たり四半期純利益金額	186円32銭	196円01銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	15,376	16,190
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	15,376	16,190
普通株式の期中平均株式数 (千株)	82,526	82,601
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額	185円74銭	195円20銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額 (百万円)	-	-
普通株式増加数 (千株)	254	339
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成26年11月5日開催の取締役会において、平成26年9月30日現在の株主名簿に記録された株主に対し、第103期（自平成26年4月1日至平成27年3月31日）の中間配当を、次のとおり行う旨を決議し、配当を行っています。

（1）中間配当金総額	4,130百万円
（2）1株当たりの金額	50円
（3）支払請求権の効力発生日および支払開始日	平成26年11月28日（金）

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月6日

参天製薬株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 宮 林 利 朗 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 辻 井 健 太 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている参天製薬株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、参天製薬株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しています。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。